

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2017年6月号 vol.75

文責：伊藤 浩明 編集：櫻田 亜矢子

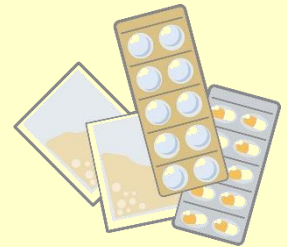
* 緩和医療学会参加報告 *

6月23日・24日に横浜で開催された第22回日本緩和医療学会学術大会に参加してきました。ポスター発表もしたのですが、今回は発売されたばかりの2種類の新薬がトピックスとなっていました。数多くの講演を聞きましたが、会場からも活発な質問が出て、関心の高さがうかがえました。簡単に2つの新薬について要約します。当院でも必要に応じて使っていく予定です。

①ナルデメジン：日本で開発された新しい下剤で、麻薬による副作用の便秘に効く。

量の調整は不要。

②ヒドロモルフィン：欧米では昔から使われていた医療用麻薬で、日本の医療者の要望で日本でも6月19日に発売された。腎障害があっても、たくさんの薬を飲んでいても比較的安全に使えると期待されている。



また、今回のシンポジウムでは、がん患者さんの提言も何度か聴講しました。その中で、患者が自分らしく生きていくことを支えるためのキーワードは『対話』であり、思いや希望を丹念にききとり、かなえてくれる医療を望むとの言葉を聞きました。まずは患者・家族の思いを聴き、医療者がしたい治療・ケアを説得して行うのではなく、患者の希望の実現に向けた治療・ケアと一緒に考えていくという態度が重要であることを改めて感じました。

また、『ケアカフェ』を体験して、1つのテーマについていろんな職種の人が『対話』することの楽しさ、意味についても感じてきました。ぜひこの地域でもやれると良いと感じました。

さらに、夜は小牧市民病院の皆様との懇親会を行いました。単なる飲み会ではありますが、それを通じて『対話』による『顔の見える関係』を育てているのだと思います。

学会に行くといろんな刺激を受け、頑張らなくてはいという気持ちになります。(日頃の臨床でそういう思いを保ち続けるのは大変ですが・・・)なるべくモチベーションを保ちつつ、この地域の緩和ケアの充実に向けて努力していきたいと思っています。



第3回

緩和ケア勉強会のお知らせ

日時：8月10日(木) 18:00~19:30

場所：中央診療棟3階講堂

内容：外来通院時から緩和ケアチームが関わった一事例